

## ぎふ花と緑の振興コンソーシアム（岐阜県）

協議会構成団体：岐阜県園芸特産振興会、岐阜花き流通センター農業協同組合、岐阜県グリーンサービス協同組合、岐阜生花市場協同組合、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、花キューピット岐阜支部、岐阜県（農政部）他、企業会員40、学会会員11、行政・団体会員25

### 対象品目

切花：フランネルフラワー  
鉢花：フランネルフラワー



切花フランネルフラワー



鉢花フランネルフラワー

### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1. 花き流通の効率化等の取組

- 物流の効率化を進めるため、先進地視察や検討会の開催、オンライン取引システムのマニュアル作成等を行った。
- 切花フランネルフラワーの流通の効率化を図るため、市場及び生花店等を交えた出荷規格の見直し検討会や試験出荷を行った。
- 切花フランネルフラワーの流通における品質改善を図るため、流通環境や品種・出荷規格、鮮度保持剤等による品質への影響について調査を行った。

- オンライン取引システムの導入により、競り：競り前取引の割合が5：5から3：7となり、物流が効率化されるとともに、入力や伝票発送作業も軽減されるなど、市場と買参人との取引の効率化が進んだ。
- 切花フランネルフラワー生産において廃棄が多かった一輪咲き・40cm未満が出荷規格として新設され、出荷本数が7,357本→15,892本（前年2.2倍）に増加するとともに、出荷作業の効率化が図られた。
- 切花フランネルフラワーの流通環境や品種・出荷規格、鮮度保持剤等による品質への影響について明らかにし、出荷規格・方法の改善や鮮度保持剤の使用について検討を進めた。



流通方法の違いによる品質への影響調査

#### 2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 社会人による花きの消費喚起のため、異業種である総合住宅展示場と連携し、「花のある暮らし」をテーマとしたイベントを開催した。
- 花き購入意識の向上や情操教育のため、花き文化団体が講師となり、小中学校等を対象に花育教室を開催した。

- イベント参加者へのアンケート（回答数117人）では、「家庭でも花を飾りたいと思った」と回答した割合は97%で、花き購入の意識付けができた。
- 花育教室参加者へのアンケート（回答数1,183人）では、「家でも花を飾ろうと思った」と回答した割合は55%で、花き購入の意識付けができた。また、花育教室の参加校数はR4年度 40校→R5年度 44校に増えるなど、学校での花飾りの取り組みが増加した。



花育教室

#### 3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 鉢花・切花フランネルフラワーにおいて、自然環境に配慮した生産を推進するため、生物農薬による化学合成農薬の散布回数の削減効果について実証を行った。
- 切花フランネルフラワーにおいて、長期栽培技術を確立するため、LED照射による収穫本数、収穫時期への影響について実証を行った。

- 生物農薬により、化学合成農薬の散布回数を27回/年→18回/年に削減（33%）できることを確認できた。
- LED照射により、収穫本数が4.6本/株→9.2本/株に増加（2倍）するとともに、開花促進効果を確認できた。



無処理区



LED処理区

### < 今後の取組予定 >

- 物流の効率化については、オンライン取引システムへの買参人の加入を推進するとともに、令和5年度に作成したマニュアルを用いながら生産者の加入も推進する。
- 切花フランネルフラワーの流通品質改善については、季節ごとに流通環境や品種・出荷規格、鮮度保持剤等による品質への影響について引き続き調査を行う。
- 社会人向けイベントについては、アンケート結果等をもとに花や緑のある暮らしを身近に感じてもらえるようなイベント内容に改善を図っていく。
- 学校花育については、県教育委員会、花き文化団体等と協力しながら参加校数を増加させる。

## 愛知県花きイノベーション地域協議会総会（愛知県）

協議会構成団体：愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知名港花き卸売事業協同組合、一般社団法人愛知県花き市場組合、愛知豊明花き流通協同組合、三河生花協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会愛知県支部、日本ハンギングバスケット協会愛知県支部、中日いけばな協会、特定非営利法人花文化を無形文化遺産に推める会、あいち花マルシェ2023実行委員会、豊橋市、豊川市、田原市、愛知県

### < 取組内容 >

#### 1. 花き流通の効率化等の取組

・産地と取引先間における受発注情報を一元化できる花き受発注システムを開発・導入し、輪ギク・デルフィニウムの受注とりまとめ業務のデジタル化による取引効率化、労働時間削減について実証を行った。

#### 2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・輪ギクの供給過多対策として、既存の生産施設が活用でき、需要拡大が見込まれる品目への転換が有効である。そこで、輪ギクとの同一作型が可能なディスバッドマムの品種・系統の選定を行った。

#### 3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・新しい花の物日として6月2日にバラを贈る「ローズの日（及びローズウィーク）」を提案している。そこで20~40代の来場が多い商業施設（mozo ワンダーシティ）においてバラのアーチのフォトスポットや「ローズの日」のパンフレット配布により啓発活動を行った。

#### 4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・電気料金の高騰や温暖化による夜冷効果の低減により、シネンシス系デルフィニウムの8月定植作型において、安価で効果的な花茎伸長（抽苔）の抑制技術の確立が求められている。そこで定植後の局所夜冷と短日処理の組み合わせによる生育・開花状況を検証した。

### < 今後の取組予定 >

- ・花き受発注システムについては、輪ギク・デルフィニウムの取引先を拡大するとともに、他品目への導入も進め、取引効率化が図られるか実証する。
- ・品目転換については、ディスバッドマム以外に今後の需要拡大が見込まれる小輪スプレーマム品種・系統の栽培実証を行う。
- ・「ローズの日」の普及活動については、次年度以降も積極的に推進し、50代以下の社会人等をターゲットに、アレンジメント体験や装飾展示等を行う。
- ・デルフィニウムの技術実証については、長日処理に最適な新たな光源を明らかにするため、各種短波長LED電照を用いて、品質・開花への影響を検証する。

### 対象品目

切り花：キク、バラ、カーネーション、  
グロリオサ、デルフィニウム  
鉢物：アジサイ、シクラメン、ポインセチア、  
コチョウラン、シンビジウム、秋用花壇苗



### < 取組の成果 >

・輪ギクは週に50~60社×3回の販売を行っているが、システム導入により1回の販売につき3分/社（450~540分/週）程度の時間短縮が可能であることが確認できた。

・デルフィニウムは市場へのFAX送信業務に10分/回、受注集計業務に30分/回かかっていたが、システム導入によりFAX送信業務は削減（0分）され、受注集計業務は5分/回に短縮可能であることが確認できた。

受発注システム

・夏秋系輪ギク品種と同一作型で18品種・系統の試験を行ったが、花形の乱れや開花遅延が発生したため同一作型に適する品種・系統は見られなかった。  
・秋系輪ギク品種と同一作型で18品種・系統の試験を行ったところ、花形が良好で開花が遅れない「夢の煌めき白」が同一作型に適すると考えられた。



「夢の煌めき白」2月開花作型

・来場者82人へアンケートを行った結果、「半年に1回以上」花を購入しようとする人及び「月1,000円以上」花を購入しようとする人の割合が、体験前36.6%から体験後47.6%に11%増加した。また、回答者のうち約66%が「今後バラを購入したいと感じた」と回答した。

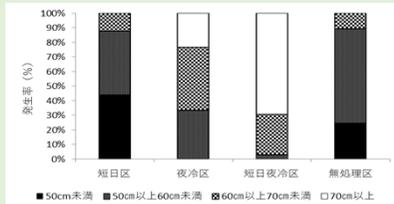
・一方、体験前のローズウィークの認知度は4%であり、今後も継続的なローズの日の普及啓発が必要だと考えられた。



フォトスポット

・短日処理、夜冷処理、短日夜冷処理及び無処理の4区で切り花品質を比較した結果、短日夜冷処理区の抽苔抑制効果が最も高かった。

・一番花の茎長も、短日夜冷処理区のみが平均で70cmを超え、スプレー仕立てが可能であることが示唆された。よって、夜冷期間における短日処理の併用は、切り花品質を著しく向上させ、コスト高を吸収できる可能性がある。



切り花長別発生率（一番花）

## 花の国づくり三重県協議会 (三重県)

協議会構成団体： 三重県花植木振興会、三重県花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会三重県支部、三重県インドアグリーン協会、(一社)日本ハンギングバスケット協会三重県支部、三重県園芸福祉ネットワーク、(一社)JFTD58花キューピット三重支部、株式会社伊勢生花地方卸売市場、三重県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、三重県ボランティア連絡協議会、(公社)三重県観光連盟、三重テレビ放送株式会社、株式会社伊勢新聞社、三重県市長会、三重県町村会、三重県

### 対象品目

切り花：バラ、ガーベラ  
観葉植物、鉢もの類、  
花壇苗、県産花き花木全般



### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1. 花き流通の効率化等の取組

- 市場関係者、物流関係者等を交えた物流対策の検討会や研修会等の開催
- 共通規格台車の生産者間の融通による花き輸送コストの削減効果に関する実証

- 市場関係者と運送業者を講師とした研修会を開催し、生産者20名が参加した。市場が進める流通のDX化等について意見交換し、物流効率化の具体策を検討した。
- 生産者間で繁忙期が重なったことで、想定よりも台車の融通が利かないことも判明した一方、産地内での最適なレンタル台車数等を精緻に把握することができ、台車の適切な配置等を行った場合には、台車に掛かる経費の16%削減(30台→25台)につながる効果が見込めることが分かった。



台車の実証試験

#### 2. ホームユース需要に対応した品目等の転換の取組

- ホームユース需要の高い難発芽性、難発根性の品目(オリーブ、グミ、アカシア)での発芽・発根率を向上させるための最適な処理方法に関する実証

- 難発根樹種の挿し木の発根率向上試験では、一部のグミでCO<sub>2</sub>の処理や酸化型グルタチオン剤の施用によって発根率が向上する事例が認められた。
- 難発芽種子の発芽率向上試験では、アカシア種子のカット処理や、80℃の湯への15分浸漬処理で発芽率の向上効果が認められた。今後、アカシアの大量増殖を実用化するには80℃の温湯処理が有効であることが判明した。



挿し木の発根試験

#### 3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 県産の花き花木の新たな販路拡大を目的とした市場買参人向け展示商談会の開催
- 若年層を中心とした消費者に対して、花や緑の魅力、育てる・飾ることの楽しさなどを提案するイベント「みえ花フェスタ2023」の開催

- 県内の花き花木生産者31名が展示会に参加し、市場13社の買参人74名に対し、産地のPRと商談を行った結果、約640万円(前回比:約270万円増)の取引につながった。
- 県産花き花木を使った飾花展示、フラワーアレンジメントや寄せ植え体験などを実施し、来場者にアンケート調査を行った。これまで花や緑に興味なかった回答者のうち68%がイベントへの参加を通じて「興味が高まった」と回答した。



花フェスタの開催

#### 4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 環境モニタリングシステム導入によるガーベラの出荷ロス低減及び品質の均質化に関する実証
- バラ、洋ランでの物理的防除効果に関する実証

- 各生産者のほ場環境データの計測・共有によるみえる化により、病害や花のシミが発生しにくい栽培環境の改善に資するデータを得ることができた。
- バラ栽培での紫外線照射によるうどんこ病の防除効果、洋ラン栽培での赤色LEDによるアザミウマの侵入防止効果がそれぞれ認められた。



赤色LED試験

### < 今後の取組予定 >

- 花き流通の効率化に向けた、先進地事例調査の実施、花きと植木の産地間連携による共通規格台車の導入、集出荷情報のデジタル化による物流コスト削減の実証。
- ホームユース向けに需要のある樹種の増殖の効率化・安定化に関する実証。
- 花き花木の販路拡大に向けた市場買参人向け展示商談会、若年層の消費拡大につながるイベントの開催。小中高生や企業向けの花育・緑育体験の実施。
- バラ、洋ランでの天敵等の利用によるハダニの防除効果実証。鉢花等出荷時のアシストスーツ利用による作業労力軽減効果実証。花木の効率的灌水システムの実証。